平成27年度茨城県グローバル人材育成プログラム帰国報告書

独立行政法人　水戸医療センター　内科・循環器内科　酒井俊介

研修先：　オランダ　Leiden University Medical Center, Department of Cardiology

今回, 私は茨城県グローバル人材育成プログラムにより平成 28 年 1 月 8 日より 3 月 6 日までオランダの Leiden University Medical Center(LUMC)へ留学させて頂きました。留学先はいくつかの選択肢を頂き，医局の先輩を頼りに LUMC に決めました。留学先を決めるまでは公用語さえも知らず，いざ公用語のオランダ語を勉強しようとしても非常に難しく断念しました。幸いにもオランダは英語教育が熱心で、実際に現地にいくと，病院内はもちろん，小さなお店や露店でも，こちらが話かける前に英語で話しかけてくれました。英語の語学留学としても非常によい環境だったと思います。

LUMC は名前の通りオランダのライデン市にあります。ライデン市はハブ空港であるスキポール空港から 16 分, アムステルダムから 30 分程度の距離にあり人口は 11 万 8000 人，面積は 23.16km^2，と大きな街ではありません(つくば市が 284.1km^2 なので 1/10 位です)。Leiden 大学はオランダ最古の大学といわれ，古くは日本に蘭学を紹介し日蘭の交流に尽力したシーボルトが所属していました。大学にはシーボルトが持ち帰った所蔵品がありオランダの中でも日本とのつながりを感じる場所でした。Leiden 大学は長い歴史があり，世界中から留学生が多くやってくるそうです。ライデン大学には 2 万 1000 人の学生がおり，そのうち 2000 人は 93 ヵ国からの留学生で，街は若い学生が多く活気にあふれていました。

オランダは一次，二次，三次医療が明確に分けられており，一次医療は総合診療医に相当する家庭医が担っており，患者さんは日本のように直接三次施設に受診することはできません。LUMC は病床数が約 850 床の三次医療のセンター病院として多くのクリニック，病院から多数の患者が紹介され年間入院数は 19,000 人程です。まず感じたことが入院から退院までが日本に比べ短期であることでした。事前に紹介状から情報は得ており，入院当日にカテーテル検査を行い問題なければ翌日に退院し以後の経過は家庭医が持ち適宜センター病院と連携をもつということでした。日本よりも役割がしっかりと分割している印象でした。

自分の専門分野は虚血性心疾患のカテーテル治療で，今回の留学期間中，毎日カテーテル室へと入り見学させて頂き，後半はアシスタントとして術野にもいれて頂きました。カテーテル室は 5 部屋あり，うち 2 部屋が主に不整脈治療，3 部屋で冠動脈治療や structure heart disease 治療で使用されていました。カテーテル件数は PCI(経皮的冠動脈形成術) 1800，TAVI(経カテーテル的大動脈弁置換術) 90 例，Mitra Crip(経皮的僧房弁形成術) 30 例，LAA closure (経皮的左心耳閉鎖術)10 例で，日本では経験できない件数を行っています。PCI は 2 か月の間でおよそ 80 件程度見学しました。茨城ではまだ使用ができない

BVS(Bioresorbable Vascular Scaffolds)も以前より使用しているとのことで，使い方やリスクなど学ぼうと楽しみしていましたが思っていたよりも使用頻度は少なく 2 か月間で 3 回のみの使用でした。当初は多く使用していたとのことですが，その長期予後にも異論があり現在は使用頻度が少なくなっているということでした。今後近いうちにも使用が開始されますが，実際の現場で使用している医師の話を聞けたことはよい経験となりました。またオランダの手技と比較することで、日本の手技を客観的に評価ことができ，それぞれ学ぶ点があると感じました。オランダの医師も日本での手技に興味を持ち，治療戦略などを discussion することができました。

今回の留学の大きな目的として structure heart disease 治療を見学することを挙げていました。TAVI は最近日本でもいくつかの施設で行うことができるようになりましたが，なかなか普段見学することも難しく，自分は今回初めて見学することができました。TAVI はカテーテルを用いて大動脈弁狭窄症という弁膜疾患を治療する方法です。LUMC では一日 4-5 件を 2 週間おきに行っており，全身麻酔下で手技を行いますが，麻酔の導入時間を含め 2 時間以内，手技にかかる時間が 30-40 分程度でした。一例一例細かに，画像や手技のポイントを教えてくださり見学ではありますが多くの症例を経験できました。Mitra crip は僧房弁閉鎖不全症に対する治療で，日本では現在認可はなく将来導入されることが期待されている治療法です。こちらもカテーテルを用いて僧房弁にクリップを打つことで逆流量を減らす方法です。LUMC でもまだ年間 30 件程度で，自分は 5 件見学することができました。手技自体の難しさやポイントを学ぶことも大きな経験となりましたが，Heart team として，麻酔科，外科，心臓エコーチーム，ナース，技師と活発な discussion をして(途中ついていけずにわからないことも多々ありましたが)，最善の治療を目指していくそのスタンスをみて，今の自分では実現できていないと反省しながらも，いつか実現していきたいと強く思いました。留学期間は 2 か月間と短いものでしたが，最先端の治療を見学することができ，また今までの自分の手技や考え方も客観的に見つめ直すことができ，本当に得難い経験をえることができました。

自分はかなり言葉に不安を抱いたまま留学しましたが，LUMC の先生，スタッフは留学生になれており，またオーベンもスペイン人，オランダ人，ギリシャ人と多国籍であることもあり，拙い英語でもしっかりと聞いてくれほとんど問題はありませんでした。もちろんオランダ語などさっぱりではありましたが，それでも 2 か月の間に簡単な挨拶はできるようになり，少しずつ慣れたところで終了となってしまいました。以前は留学にとても苦手意識があったのですが，可能であればまた世界の治療を学びに行きたいと思いました。

今回学んだことを茨城にどう生かしていくか ―。多くの PCI 症例を経験でき，手技を学べたことは大きく，今後の自分が対応する患者さんによりよい治療を提供することで生かすことができます。まだ前述した，これから使用する可能性がある BVS や TAVI, Mitra clip など，経験したことを生かし将来的に日本の患者さんへと還元できると考えています。

今後茨城グローバル人材育成プログラムにて海外研修する方に参考になることとしては，

オランダの人はとても親切で，道で迷っているとすぐに声を(英語で)かけてくれるし，逆に声をかければ丁寧に教えてくれます。オランダはどこに行っても英語が通じ，また比較的優しい英語で話せるので留学先としてはとても入りやすいと所だと思います。

最後になりましたが，私にこの機会を与えて下さった茨城県，筑波大学，水戸医療センター，またプログラムに推薦して下さった青沼教授，植木院長への心からの感謝を申し上げ、グローバル人材育成プログラムの報告とします。

Prof. Martin Jan Schalij と.

<<Leiden University Medical Center>>
(ちょうどドクヘリが着陸する所. ドクヘリが和製英語と知りませんでした. 英語では Air Ambulance というのですね)